

自他のよさを知り、互いに認め合う学級づくりを目指して
ー 集団での表現活動を取り入れた学級経営の工夫を通して ー

加美町立宮崎小学校 北館 一裕

1 目指す授業像

児童が「集団での表現活動」の実践に取り組んでいくことで、自己有用感を高め、自分や友達のよさを知ったり、互いに認め合ったりすることができる授業

2 研修テーマ・目指す授業像に迫るために

自己のこれまでの実践において、副題に掲げている「集団での表現活動」を取り入れた学級経営を行ってきた。「集団での表現活動」とは、表現する側とそれを受け止める側の双方が相手意識を持つことで、互いを認め合う人間関係づくりにつなげていくための活動である。表現活動では、ダンスや歌、手品、漫才などのエンターテインメント性の高いものを扱っている。その理由は2点ある。1つ目は、日常生活における「笑い」が重要な役割を持っていると考えているからである。エンターテインメント性の高い表現活動には「笑い」を生み出す要素が多く含まれている。「笑い」には場を和ませる力があり、コミュニケーションを円滑にする効果がある。「笑い」を伴う表現活動を取り入れていくことは、よりよい人間関係を形成していくための手段として有効だと考えている。2つ目は、エンターテインメント性の高い表現活動では、児童が表現を受け止める側の重要性を実感できると考えているからである。このような理由から、児童にエンターテインメント性の高い表現活動に取り組ませている。これまでの実践を振り返ると、その活動を通して、表現活動への意欲や表現活動に取り組む際の協調性など、表現活動に関する児童の成長を実感する場面はあったが、児童がそれらを客観的に捉えて自分自身の成長を感じ取ったり、他の児童に目を向けて互いのよさを認め合ったりすることまでには至っていなかったように感じる。

そこで、1年間の学級活動等の場を通して、「集団での表現活動」に段階的・継続的に取り組ませ、振り返りの活動を充実させていく。その中で、表現を受け止める側の立場も経験させることで、受容の態度や思いやりの心情の重要性についても気付かせたい。表現する側とそれを受け止める側のそれぞれの立場において、互いに相手意識を持ち、互いを尊重することの大切さを実感させる。また、それらの活動に主体的に取り組めるような学級活動の工夫を行っていくことで、児童に表現することの楽しさや喜びとともに、自分の表現を見て楽しんでくれたり、受け止めてくれたりすることから得られる充実感や達成感を味わわせたい。このように「集団での表現活動」とその振り返りを継続していくことで、自他のよさを知り、互いを認め合う学級づくりができるのではないかと考えた。

3 I期の取組について 【題材名 1学期の表現活動を振り返ろう】

(1) 研修テーマに迫るための手立て

I期の表現活動としては、毎朝のスピーチ活動、帰りの会での係活動の発表、学校行事である運動会での創作ダンスに取り組ませた。I期の取組の多くは、教師の提案で行ってきたが、児童に発表内容に関する意思決定をさせてきたことで、児童が自ら表現活動を実践し、評価を受けたという達成感が積み重なってきた。

本題材では、1学期に取り組んできた表現活動について振り返り、蓄積してきた自己評価や他者評価を伝え合うことで、友達のよさに気付いたり、自分自身の成長を感じ取ったりできるようにしたいと考え、実践を行った。

(2) 具体的な取組

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

1学期の「集団での表現活動」を記録しておき、画像として導入時に活用した。また、授業の展開場面で表現活動を行った際には、児童の意欲面を大切にしながら、児童自身に意思決定をさせて取り組ませるようにした。さらに、授業で取り組んだ表現活動の内容は、以前に取り組んだものとする事で児童への過度な負担を避けるように配慮した。

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

これまで学級活動ノートに蓄積してきた表現活動の振り返りを活用し、自分の表現活動に対する心情の変化を確認した。また、授業中に自分の考えをまとめたり、友達の意見を記録したりしたことを、一斉での話し合いや振り返りに生かした。

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

児童がこれまで書きためてきた学級活動ノートや係活動コーナーの中から、教師が児童一人一人に対する肯定的な評価を抜粋して一人1枚の手紙（プリント）にまとめ、該当の児童に配布した。抜粋した他者評価の記述は、表現活動の内容に関するものに加え、友達の成長や変容、感謝などの観点で書かれているものとし、それをそれぞれの児童が見ることで気が付いた友達の成長やよさを本人に伝えたり、自分自身の成長やよさを感じ取ったりできるようにした。

(3) 成果と課題（成果○ 課題▲）

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

○ 4月から継続してきた表現活動を画像として記録してきたことで、授業の導入段階で児童の取組の変化を提示することができた（図1）。児童は画像を目にすることで今まで取り組んできた表現活動について思い出すとともに、自分たちの表情や動きの様子を確認し、その時の心情を振り返ったり、今の心情との違いを認識したりすることができた。また、今回の授業を通して、ほとんどの児童が表現活動に対して肯定的な捉えをしているということが分かった。児童の実態に合わせて段階的、継続的に取組を工夫してきたことで、堂々と表現を楽しんだり、協力して表現を作り上げたり、友達の表現を盛り上げたりなど、一人一人が表現活動を通じた自分の成長を感じ取ることができた。



図1 授業実践Ⅰの記録画像

○ 「表現活動の在り方について考える」学習場面では、その場で即興に近い表現活動に挑戦させた（図2）。取り扱う表現活動の内容は児童の何人かが志津川合宿で取り組んだものにした。児童は、以前に表現したり、見たり聞いたりした経験があったため、あまり抵抗感を持つことなく表現活動に挑戦することができた。普段は表現することに対してあまり積極性が見られない児童が自分から進んで立候補する様子が見られた。表現活動が、普段の学校生活の中で自然な取組の一つになってきていることを感じた。表現活動を学級経営の核として継続してきたことで、学級の中での取組には安心感を持っている児童が増えてきている。また、表現を受け止める側の重要性についても理解し、表現する側からあえて受け止める側に回る児童も見られた。表現する側、表現を受け止める側の双方が、互いに相手意識を持った表現活動を行うことができていた。



図2 授業実践Ⅰの表現活動

▲ 展開1「表現活動を通じた自分自身の成長や友達のよさについて考える」学習場面に時間がかってしまい、展開2「相手を意識した表現活動の在り方について考える」場面において、深みのある話し合いができなかった。児童は授業やこれまでの表現活動を通して、表現する側とそれを受け止める側双方が互いに相手意識を持つことの大切さについては理解できていたが、その内容が日常生活や他教科の学習場面にも通じるということについては、理解していたとは言えない。発問や問い返しを工夫することで、日常生活でも意欲的に表現したり、相手を受け入れながら表現を受け止めたりすることが大切であるということを見事に気付かせることが

できたのではないかと考える。これまでの取組や授業を通して高まってきた表現活動への意欲を、2学期の活動につなげていくような働き掛けが必要であった。1学期は主に学級内での表現活動において、表現をする側とそれを受け止める側の双方の重要性を共有してきた。2学期は更にステップアップして表現活動を学級外に発信していくことから、学級の仲間とは違って信頼関係が構築されていない存在に対して、表現活動を行う際の相手意識の持ち方などについて考える時間を確保することも必要だった。

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

▲ ノートのまとめ方には個人差があり、ノートをまとめながら、積極的に発表ができる児童もいれば、板書を写すことに気を取られて話合いに集中できない児童もいた。特に自分の思いや考えをまとめたり発表したりするときには、ノートにまとめることで安心し、自己開示や自己表現につながらない児童もいた。授業では児童の様子を観察しながら、いったん手を止めさせて全員に考えさせたり、意図的に指名をして発言を促したりしたが、より自発的な発言につなげていけるようにするには、様々な教科を通してノートのまとめ方や活用の仕方について指導を継続していく必要がある。

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

○ 普段から学級活動ノートで振り返りを行ったり、係活動コーナーで友達を称賛するコメントを掲示したりしてきたことで、1学期に実施した表現活動に関する自己評価や他者評価を蓄積することができた(図3)。



図3 係活動コーナー



図4 授業実践Ⅰでプリントを読む児童

授業では他者評価の中からそれぞれの係活動と児童個人に対する称賛の言葉を抜粋し、1枚のプリントにまとめたものを児童一人一人に配付した(図4)。これまでの表現活動を通して全ての児童が友達のよさについて記述することができていたが、振り返りにおいて自分の成長について書くことができていた児童は多くなかった。しかし、他者評価を得たことで自分の努力や良い変化について知ることができ、成長したことを素直に受け入れることができた。

▲ 本時の目標の中にある「友達の頑張り(よさ)や自分自身の成長に気付いたりすること」について、児童から「積極的になってきた」「明るくなった」「堂々と表現できるようになった」「相手のことを考えられるようになった」「笑顔で受け止められるようになった」「自分のことを信じてくれている」などの意見が挙げられたが、児童の意識を表現活動から日常生活に広げることができなかった。表現活動において、表現する側とそれを受け止める側の双方が相手意識を持つことの大切さについては理解している児童が多く、態度・心情ともにそれを実践できている。しかし、日常生活や学習場面では、相手意識を持って行動できていないことがまだまだ多く見られる。表現活動で気付くことができた友達のよさや自分の成長が、日常生活や他教科の学習においても生きていることに気付かせるような働き掛けが必要である。

4 Ⅱ期の取組について 【題材名 2学期の表現活動を振り返ろう】

(1) 研修テーマに迫るための手立て

Ⅱ期では、今まで主に学級の中で友達に対して発信してきた表現活動の対象を保護者や地域、他学年へと広げていった。学級の児童全員が表現する側となり、互いに協力して表現活動を作り上げたり、披露したりした。

本題材では2学期前半に行った学習発表会や老人ホーム訪問での表現活動を振り返り、1学期に取り組んできた表現活動との違いについて考えさせた。特に相手意識の持ち方について、学級内で

の活動と学級外や学校外へ発信する活動とでは、どのように自分たちの心情が変化するのか、あるいはどのような心持ちが大切になってくるのかということについて話し合わせた。

(2) 具体的な取組

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

2学期前半に行った表現活動を記録しておき、導入時の振り返りに活用した。1学期と2学期の表現活動について、表現を受け止める側の違いに気付かせ、それぞれの表現する側の心情について確認した。そして、信頼関係がそれほど構築されていない存在に対してどのような態度や心情で表現活動を行うべきかを考えさせた。また、2学期の表現活動の経験から、より多くの人達の前で表現活動を行ったことへの達成感や充実感を味わわせ、表現活動への自信と意欲を高めさせた。さらに今後の活動として、他学級へ表現活動を発信していくことを提案し、自主的な活動へとつなげていけるようにした。

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

I期同様、学級活動ノートを活用させ、振り返りの記述を蓄積していった。自分の考えをまとめさせたり、友達の意見を記録させたりして、その後の対話や一斉の場での話合いに活用させた。2学期に取り組んだ学習発表会や老人ホーム訪問での振り返りを生かして、他学年へ表現活動を発信させていくことへの意欲喚起を図った。また、その後の表現活動を企画する際には、内容について自分たちで話し合わせたり、計画的に練習に取り組ませたりした。

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

I期同様、表現活動についての振り返りを継続し蓄積していくことで、児童の変容を見た。表現活動の振り返りを通して、相手意識を高めさせ、児童が友達のよさや自分の成長に気付くことができるようにした。授業では、特に児童の気付きを日常生活や学習場面と結び付けられるような発問や問い返しなどを工夫した。

(3) 成果と課題（成果○ 課題▲）

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

○ 4月から継続してきた表現活動について画像を記録してきたことで、授業の導入・展開の段階で活用することができた（図5）。特に学習発表会や老人ホーム訪問は、2学期に取り組んだ表現活動として、自分たちの成功体験を想起することができ、今後の表現活動への更なる意欲につながった。また、1学期と2学期の表現活動について、表現を受け止める側の違いを確認する場面においても、表現を受け止める側の数の違いや、信頼関係の違いについて児童に気付かせるために大変有効であった。志津川合宿や老人ホーム訪問の画像からは、表現を受け止める側の表情や様子などもうかがえるものがあり、表現活動を行った時の自分たちの心情を振り返るだけでなく、相手の反応についても鮮明に思い出すことができた。



図5 授業実践Ⅱで用いた児童の表現活動の記録画像

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

○ 学級活動ノートを継続して活用していることで、児童一人一人の心情の変化を確認することができた。I期では、ノートのまとめ方に個人差が見られたが、繰り返し取り組んできたことで、ほとんどの児童が工夫してノートをまとめられるようになってきた（図6）。板書を写すことばかりに気を取られる児童も少なくなり、自分の考えをまとめながら発言できるようになった。積極的に発言する児童もいれば、ノートにまとめることで表現しようとする児童もいた。

め、学級活動における話し合いの際には、グループやペアなどでノートにまとめたものを確認しながら話し合いを進めるように日頃から心掛けている。今回の授業でも主となる発問を絞り、展開2で取り上げた「1学期の表現活動の失敗例と2学期の表現活動の成功例の比較」の際に、「なぜ、失敗したのか。なぜ、成功したのか。」をじっくり考えさせた。自分の考えをまとめる時間を確保したことやペアやグループでの話し合いを行ったことで、児童はそれぞれ自分なりの考えを持って話し合いに参加することができた(図7)。また、一斉での話し合いの際には、児童の発言に対して教師が問い返しを行うことで、表現活動を通して相手意識の大切さについてより深い考えを導き出すことができた。



図6 授業実践Ⅱで話し合う児童

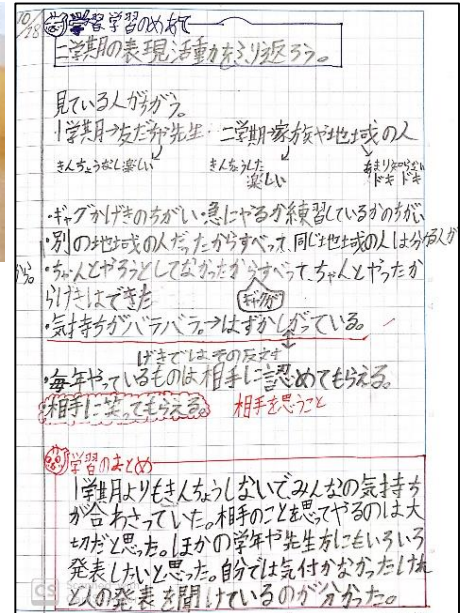


図7 授業実践Ⅱをまとめた児童のノート

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

- 2学期は特に保護者や地域の方々に披露する表現活動に取り組んできたが、その都度振り返りを記述させ、学級通信に掲載するなど児童や保護者の目に触れるような工夫を行ってきた。自分自身の成長や友達のよさ、学級のきずなの深まりなどについての言葉も多くあり、表現活動を通じた自分自身や互いのよさについて考える機会とすることができた。また、学級活動の時間では、1学期のまとめに続き、今回の授業でも2学期の表現活動についての振り返りを行った。今回の授業では、1学期と2学期の経験を比較することで、表現活動への取り組み方や表現する立場、表現を受け止める立場における心情の変化について、自分たちの成長を実感することができた。授業のまとめで行った振り返りでも、「相手意識の大切さ」「学級の団結力の向上」「表現活動への意欲」がうかがえる記述があった。

5 1年間の総括

(1) 研修の成果

副題に掲げている「集団での表現活動」を学級経営の柱とし、4月から12月にかけて計画的に取り組むことができた(図8)。児童一人一人や学級集団の実態を的確に把握しながら、常時活動や学校行事・児童会行事などのバランスを考え、段階的・継続的に取り組ませてきたことで、児童は表現活動に取り組むことの楽しさや、表現活動を見たり聞いたりして楽しんでもらうことへの喜びを実感することができようになった。さらに、今まで取り組んできた表現活動を振り返ることで、自分自身の成長や友達のよさ、学級の団結力についても実感することができている。現在では表現活動で得られる達成感や充実感を求め、主体的に取り組もうとする姿が見られる。アンケートの結果からは、4月に比べ自尊感情が増してきていることがうかがえる(表1)。これは、表現活動を通して学級の友達に認められる経験や学級の友達と同じ目標に向かって協力できた経験が影響しているものと思われる。普段の生活や学習の様子からも自己表現や自己開示の場面が多く見られるようになり、友達の努力を称賛したり、友達の成功と一緒に喜んだりする姿が見られるようになった。

質問	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかというあてはまらない	あてはまらない
自分のことが好きである。	3人(+2)	8人(+3)	1人(-3)	0人(-2)
自分という存在を大切に思える。	5人(+1)	7人(+2)	0人(-3)	0人(±0)
自分のことを必要としてくれる人がいる。	7人(+6)	4人(-4)	1人(-2)	0人(±0)
自分は人と同じくらい価値のある人間である。	3人(+1)	7人(+4)	2人(-1)	0人(-4)

表1 自尊感情に関するアンケート R1、12月実施 ※(数字)は4月との比較 在籍12人

図8 4月～12月に行った主な表現活動

【常時活動（学級の時間）】					
朝の会「スピーチ活動」		帰りの会「今週のギャグ」		帰りの会「係の発表」	
	日直が1分間スピーチをし、感想を発表し合う。		毎週教師が提示したギャグを学級全員で行う。		各係が曜日にダンスや漫才、手品などを披露する。
【主な表現活動（学校行事・総合的な学習の時間・学級活動・児童会活動）】					
	運動会「令和ダンス」 児童が考えたオリジナルの振り付けも取り入れ、会場の方々に披露した。（5月）		老人ホーム・デイサービス訪問 お年寄りが喜ぶレクリエーションについて話し合い、劇を披露した。（10月）		
	運動会「徒競走呼名で一発ギャグ」 走る組毎に一発ギャグを決め、呼名の後に会場の方々に披露した。（5月）		宮小祭「ダンス：日本の米は世界一」 総合で学習した米についてのクイズとダンスを他学年と祖父母に披露した。（11月）		
	志津川合宿「スタント」 キャンドルセレモニーでグループの出し物を考え、学級内で披露した。（6月）		NHK仙台放送局見学 小学校紹介で統合を記念した替え歌を披露し、テレビで放映された。（12月）		
	学習発表会「劇：桃太郎×クイーン」 桃太郎とクイーンをコラボさせた音楽劇を保護者や地域の方々に披露した。（10月）		4・5・6年生合同クリスマス会 3学年合同でお楽しみ会を行い、小グループ毎に出し物を披露し合った。（12月）		
【振り返りの授業（学級活動）】					
1学期の表現活動を振り返ろう・・・令和元年7月12日実施					
2学期の表現活動を振り返ろう・・・令和元年10月25日実施					

(2) 今後の課題

表現活動に取り組むことで、自分自身や友達のよさに気付き、それを認め合うことができてきている。しかし、それらを児童自身が日常生活と結び付けて考えることは難しいということが、Ⅰ期・Ⅱ期の振り返りの授業で明らかになった。表現活動における「相手意識」は日常生活や学習活動の中でも当然生かされており、今回の実践においても教師の見取りとしてその様子うかがえた。授業では、そのことを児童に気付かせるような働き掛けを行ったが、表現活動の時と日常生活の時の「相手意識」の持ち方が共通しているということについて、児童自らが理解することは、児童にとってハードルが高いように感じた。行事の事後指導や学級活動の時間を活用して、表現活動の振り返りを充実させ、教師が日常生活や学習の場面とのつながりに気付かせることで、意識付けを図っていくことが必要だと感じた。

自分や友達のよさを知り、互いに認め合うためには、日常生活や学習活動の中での取組が必要不可欠である。表現活動は互いの存在を再認識し、自分自身や友達のよさについて気付くことができる効果的な手段となり得ることが分かった。今後は、それらの気付きを、児童が日常生活や学習活動と結び付けて考えたり、更に新たな成長に気付いたりすることができるような教師の働き掛けについて検討していき、よりよい学級経営の在り方について、研修を深めていきたい。

主な参考文献

[1] 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」

2019

図表等の許諾について

図1, 2, 4, 5, 7, 8は授業実践や表現活動に取り組む児童の様子である。児童が特定できないようにすることとし、児童の保護者から使用許諾を得た。

図6は児童のノートである。児童氏名を伏せて資料を活用することとし、児童の保護者から使用の許諾を得た。